

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年10月19日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.57】

革マルアジトからJR関係資料が大量に押収される！

前号で、革マル派が執拗にJR問題に関心を示し、関係者への違法行為も引き起こしてきた実態や、警察はJR総連・東労組に対し、今も革マル派が相当浸透しているとみて、厳しく注視していることを検証した。これらの違法行為は、全国に点在する革マル派の「非公然アジト」の摘発で明らかにされてきた。本情報でも、1996年8月に警視庁公安部が摘発した「綾瀬アジト」からの押収資料に基づき作成したとみられる文書を紹介したが、その後も警察はいくつかのアジトを摘発し、同派のJR総連・東労組等への浸透に確信を深めているものと考えられる。2004年4月21日の読売新聞(朝刊)は、警視庁公安部が「深川アジト」を摘発し、JR総連内非公然組織の存在を明らかにしたことを報道した。

革マル派 JR総連内に非公然組織 教組にも 暗号「ヘーゲル」「ワトソン」

警視庁公安部が先月(注:2004年3月)、過激派「革マル派」の非公然アジトから押収した暗号文書を解読したところ、同派がJRの労働組合や教職員組合などに、それぞれ「ワトソン」や「ヘーゲル」といった偉人の名前などを付けた非公然組織を作っていたことがわかった。 公安部は先月25日、1997年に革マル派が起こした国労幹部宅への住居侵入容疑で、東京都江東区内のマンションの一室の「深川アジト」を捜索。暗号文書はパソコン用のフロッピーに保存されていた。公安部が約3週間かけて解読した結果から、同派はJRの労働組合「全日本鉄道労働組合総連合会」(JR総連)内に、「ワトソン」と呼ぶ非公然組織を作っていたことが判明した。 公安部は、JR総連内での組織拡大が目的とみているが、規模やメンバーなどは不明。(後略)-

革マルがJRを狙う目的はどこにあるのか？

すでに「トラジャ」「マングローブ」などJR内の革マル組織の存在について検証してきたが、非公然組織「ワトソン」とは何を指すのだろうか。なお、記事中の「国労幹部宅への住居侵入」とは、1996年8月に革マル派が当時の国労M企画部長宅に侵入した事件のことで、革マル派が機関紙「解放」で「JR採用差別問題」等をめぐり国労を批判する記事を掲載していた最中に発生したもの。1998年10月13日の朝日新聞(朝刊)は事件を以下の通り報道したが、「練馬アジト」だけでJR関係資料が、何と、段ボール40箱分8千点あったという！彼らがこれほどJR問題に関心を示すのは、拠点組織であるJR総連・東労組への浸透、支配の維持、拡大がきわめて重要であるからこそだろう。

革マル派 JR連合系労組も狙う？ 幹部宅侵入・盗聴の疑い

国労(高橋義則委員長、2万8千人)の本部書記長宅に過激派・革マル派の非公然活動家が忍び込んだとされる事件で、警視庁公安部は12日、住所不詳のN容疑者について住居侵入容疑で逮捕状をとり、全国に指名手配した。東京・練馬の革マル派アジトから公安部が今年1月に押収した約5千巻のカセットテープや約300個巻のビデオテープから、JR連合系の労組幹部宅への侵入や盗聴の疑いがあることも新たにわかった。調べでは、N容疑者は数人の活動家と共謀して1996年8月末ごろ、東京都港区にある国労本部のM書記長宅に忍び込んだ疑い。 練馬アジトから押収した資料は段ボール箱約120箱分あったが、国労やJR関係の資料は3分の1にあたる約40箱分、約8千点にのぼるといふ。(以下は次号に記載)